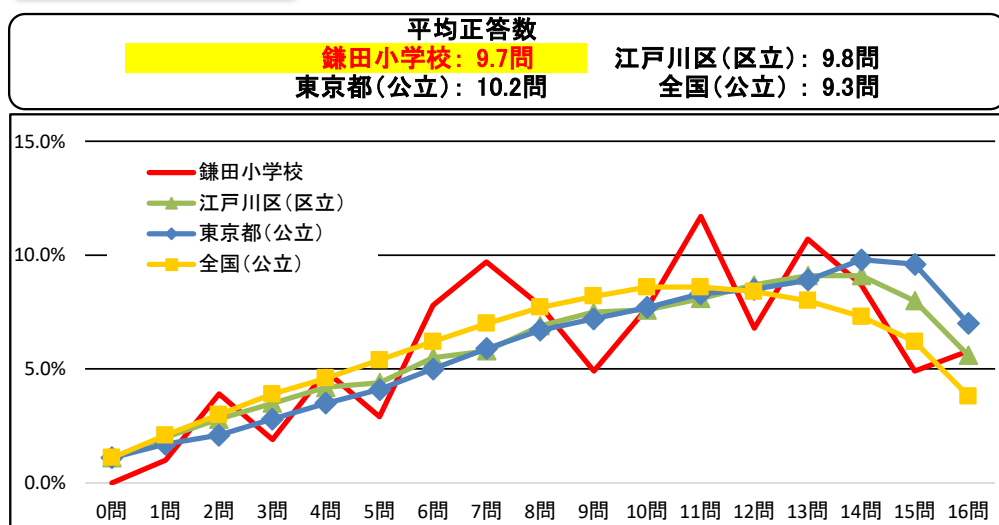


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立鎌田小学校

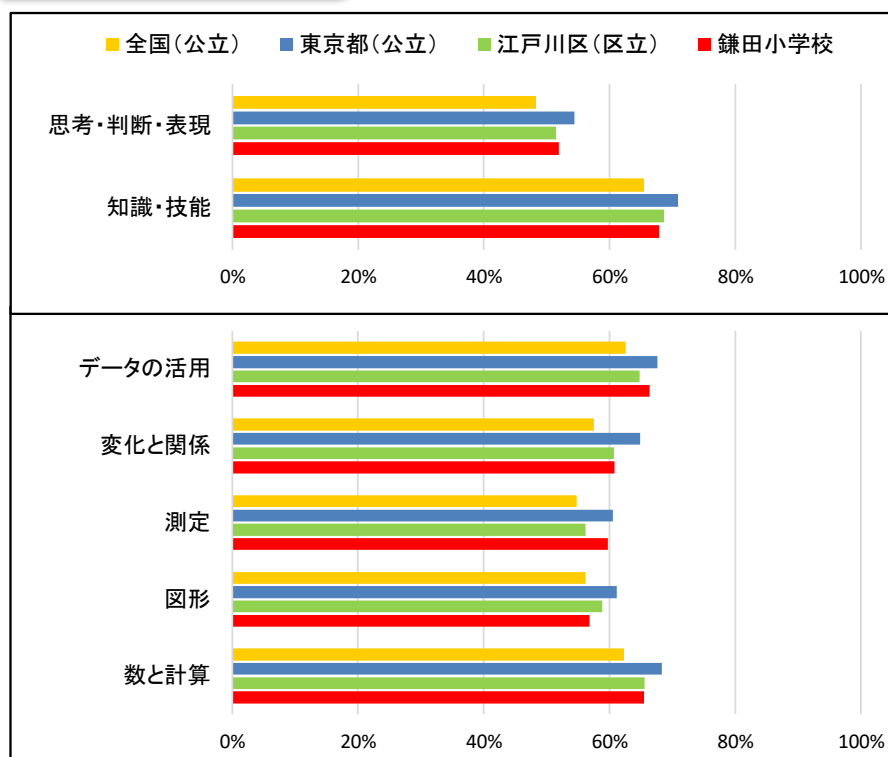
## 正答数分布



【平均正答率の差】

|            |      |
|------------|------|
| 鎌田小学校      | 61%  |
| 江戸川区(区立)   | 61%  |
| 東京都(公立)    | 64%  |
| 全国(公立)     | 58%  |
| 都との差(ポイント) | -3.0 |

## 「領域別」の結果

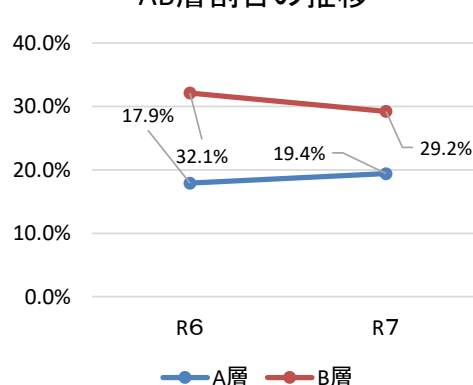


## 四分位における割合（都全体の四分位による）

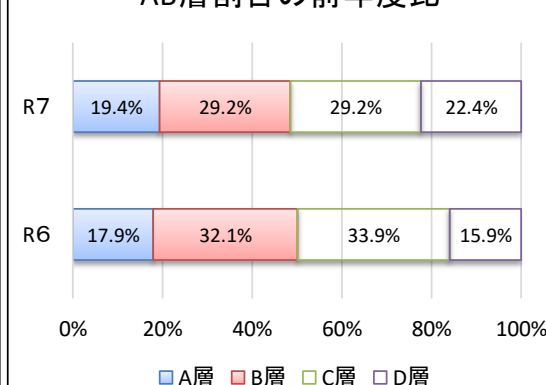
| 算 数      | 上位 ← 下位      |              |             |            |
|----------|--------------|--------------|-------------|------------|
|          | A層<br>14～16問 | B層<br>11～13問 | C層<br>7～10問 | D層<br>0～6問 |
| 鎌田小学校    | 19.4%        | 29.2%        | 29.2%       | 22.4%      |
| 江戸川区(区立) | 22.7%        | 25.9%        | 27.9%       | 23.5%      |
| 東京都(公立)  | 26.4%        | 25.7%        | 27.6%       | 20.3%      |
| 全国(公立)   | 17.3%        | 25.0%        | 31.4%       | 26.3%      |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

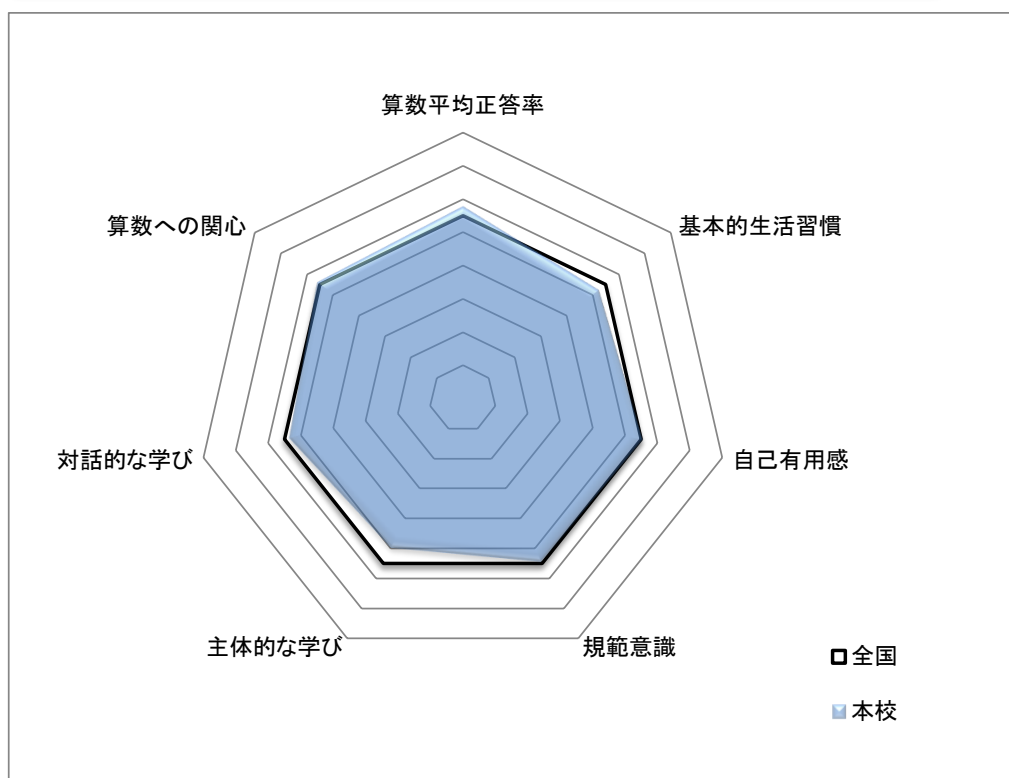
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

算数科の平均正答率に関しては全国より、3ポイント高く61%となっている。その他の項目は自己有用感、規範意識、対話的な学び、算数への関心は全国と同じくらいで高いポイントを維持している。その反面、基本的な生活習慣、主体的な学びのポイントは全国のポイントより低くなっている。特に主体的な学びは校内研究との繋がりもあるので再度見直ししながら児童の学力向上に取り組んでいく。

《家庭・地域への働きかけ》

・普段からの家庭学習や、スタディーウィーク、ミライシード、放課後学習教室を活用した基礎学力の向上を図る取り組みへの理解・協力を得ている。  
 ・スタディーウィーク中は、全児童に学習カードを配布し、学習時間、学習内容、感想等毎日記入させ、家庭からのコメントの記入も呼びかけている。

## 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
 ・昨年度の割合と比較すると、A層2.9ポイントダウン、B層1.5ポイントアップとなっている。  
 ただしAB層の合計に関しては、令和6年度50ポイントから令和7年度48.6ポイントとなっており、AB層の低下、特にCD層の増加がみられることが分かる。  
 ・学校の取組としては大きく3点である。1点目は江戸川区で行っている放課後学習教室による、算数に対する苦手児童へのアプローチ。2点目は江戸川区スタディーウィークを活用した、学習習慣、基礎学力の定着を目的としたドリル学習の実施。3点目は習熟度別算数の実施による、児童の実態に合わせた授業展開を行っていくことである。

## 《学校の取組》

・教員の指導力向上  
 ・区小教研、研究授業、研修への参観、それに伴う教材研究、授業実践を行っている。  
 ・江戸川区算数スタンダードの研修への参加、それに伴う授業作り、授業実践を行っている。  
 ・校内でのOJTや互いの授業を参観しながら指導、助言をしている。

## ・基礎学力の保障

・スタディーウィークの期間に鎌田小独自の取り組みとして「正解王」を作成している。ミライシードの問題に繰り返し取り組むことで基礎的な計算力の練習に取り組んでいる。  
 ・放課後学習教室を活用し、算数に対する苦手意識のある児童を中心として基礎学力の向上を図っている。  
 ・年間を通し習熟度別の算数を実施して。新しい単元が始まる前にレディネステストを行い児童の進行速度に合った教室に別れ授業に望むことができるようにしている。

## ・学習習慣の確立

・毎週金曜日の朝を朝学習として江戸川区で行っている「YOMUよむワークシート」を活用した学習を毎週確実に積み上げることで学習に望む習慣を育てている。  
 ・普段からの家庭学習に、スタディーウィークを活用した学習習慣の見直し、改善する期間を設けている。  
 ・チャイム着席や授業規律を明確にすることで、普段の授業から学習に向かう姿勢を育てている。

## ・AB層の育成

・年間を通し習熟度別の算数を実施して。新しい単元が始まる前にレディネステストを行い、児童の進行速度に合った教室に別れ授業に望むことができるようにしている。  
 ・区学力定着度調査に向けて、4、5年生は学習カルテを活用し、児童は各自ドリルパーク等苦手分野の学習に取り組んでいる。